

地域文化を核とした国際交流事業の展開

東京都杉並区「東京高円寺阿波おどり台湾公演 2025」

助成対象事業	姉妹・友好提携記念	文化・芸術・研究	青少年交流	国際会議	その他
--------	-----------	----------	-------	------	-----

日本：東京都杉並区

海外：台湾 台北市・新北市・台中市

【事例紹介】

1 交流の概要

「東京高円寺阿波おどり」は、毎年8月、約1万人の踊り手が参加し、約100万人の観客が集まる東京の夏を代表するお祭りです。この日本の伝統文化を海外に発信することに加え、台湾との文化芸術交流を通じて相互理解を深めるとともに、将来的な相互訪問や地域活性化につなげることを目的としています。

2025年4月には、台湾（台北市、新北市、台中市）において「東京高円寺阿波おどり台湾公演 2025」を実施し、延べ約6.3万人の観客に向けて日本の伝統芸能を発信しました。

2 交流の背景とこれまでの経緯

杉並区と台湾の交流のきっかけは、東日本大震災を受け、台湾台北市と杉並区の交流自治体である福島県南相馬市の中学生を交えての野球交流を2011年12月に台湾で実施したことから始まりました。

このスポーツ交流で始まった関係性及び東京高円寺阿波おどり振興協会等からの要望を受け、杉並区では、東京高円寺阿波おどりを通した杉並・台湾相互の文化交流を実現するため、台湾関係者と協議を進めました。そして、2015年4月に国立台湾戯曲学院と「相互交流を推進する宣言書」を取り交わし、その記念として学院が立地する台北市内湖区において「東京高円寺阿波おどり」を披露しました。

また、これに応える形で同年11月には国立台湾戯曲学院が来日し、杉並区内において「台湾雑技」の公演が行われ、その後も台湾の伝統芸能（雑技、布袋劇など）の公演を2018年、2022年、2023年に杉並区で行いました。

この相互交流が台湾市民・杉並区民双方に好評で、「交流事業として発展していったほしい」との要望が多かったことから、東京高円寺阿波おどり振興協会及び杉並区交流協会が中心となり、これまでに計4回（2015年、2017年、2019年、2023年）「東京高円寺阿波おどり台湾公演」を実施しました。

3 事業の内容

本事業では、阿波おどりの公演に加え、観客参加型の交流や地域連携の取組を実施しました。

具体的には、高円寺阿波おどり連協会に所属する各連から選抜された約100名の踊り手・お囃子が台湾を訪問し、商店街や寺院など複数の会場で演舞を披露しました。加えて、以下のような工夫を行いました。

- ・阿波おどりの歴史や踊りを紹介するワークショップ
- ・商店街と連携した体験型企画

- ・ SNS（主に Facebook）を活用した広報
- ・ 観客と踊り手との触れ合い（写真の撮影会やグッズ配布）

【スケジュール・公演場所】

- ・ 4/18【台北市】 松山区
- ・ 4/19【新北市】 板橋区
- ・ 4/20【台北市】 迪化街（公演・阿波おどりワークショップ）
- 【台中市】 南屯区



台湾板橋区での公演



台湾松山区での公演



阿波おどりワークショップ —台湾の皆さんと阿波おどりを通じた交流—

4 事業実施体制

本事業は、杉並区に加え、日台双方の文化団体や民間団体と連携して実施されています。

○杉並側

- ・ 杉並区交流協会：現地調整・運営
- ・ 東京高円寺阿波おどり振興協会：演出・構成
- ・ 高円寺阿波おどり連協会：踊り手の選抜・派遣

○台湾側

- ・ 商店街、地元企業、お寺や宮：受入の主催、資金確保
- ・ 自治体、ボランティア団体、地元警察、学校：会場運営や安全管理

このように、行政・文化団体・現地パートナーが役割分担しながら実施している点が特徴です。

5 事業の成果と評価

本事業では、台湾現地で延べ約 6.3 万人の観客を集め、阿波おどりの魅力を広く発信することができました。

今回新たな取組として、台北・大稻埕エリアの迪化街(商店街)で開催する「戲春大稻埕」と連携しました。商店街と連携できたことは、これまでの公演に留まらず、店舗とのコラボレーション企画や体験ワークショップなど、多彩なプログラムを展開することにつながり、例年以上に賑わいと交流を生み出すイベントとなりました。

これまでの交流が元となり、台北市内の迪化街と、高円寺の純情商店街との間で商店街同士の交流が始まっており、相互交流を継続して行っている結果、行政関係の交流から市民同士の交流へと良いシナジー効果を生み出しているものと考えられます。

また、ワークショップや交流企画を通じて、参加者からは「実際に日本で本場の阿波おどりを見たい」といった声もあり、インバウンド誘客に向けた効果も見られました。

さらに、SNS を活用した情報発信により現地での認知度が向上し、継続的な交流への基盤づくりにも繋がっております。

6 今後の展望

杉並区では、本事業を継続的に実施することで、文化交流の深化と市民レベルでの交流拡大を図る方針です。

今後は、台湾からの文化団体の受入や舞台芸術分野での共同制作など、双方向の交流を強化するとともに、文化・スポーツ・教育分野を横断した取組へと発展させていく予定です。

(作成年月：2026 年 6 月)

※事例紹介に掲載されております人口、面積等の情報は作成年月時で公表された数値です。また、ホームページのリンク先、掲載動画等につきましては、自治体のホームページの更新等によりリンク切れになっている場合があります。